

Weekly Oil Market Review 22第8号

2022年(令和四年)

5月27日(金曜日)

毎週(金) 14:00発行

発行所 (-財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター

電話 (03) 3534-7411(代)
FAX (03) 3534-7422

〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ11階
ホームページ <https://oil-info.ieej.or.jp>

■概況

5/12～5/18のNYMEX・WTI先物市場は、106.13～114.20ドルの範囲で推移した。

5月19日には、中国上海の都市封鎖の段階的緩和発表による中国経済の回復期待、また、ドル安進行による原油先物の割安感から、3日ぶりに反発した。6月限の終値は前日比2.62ドル高の112.21ドル。

週末20日は、引き続き、中国・上海の規制緩和の動き、欧洲共同体(EU)のロシア産石油の禁輸検討報道で、続伸した。ただ、米国の金融引き締めによる景気減速懸念が上値を抑えた。6月限の終値は前日比1.02ドル高の113.23ドル。

週明け23日は、材料が乏しく低調な取り引きの中、米国の大ライブシーズンを前にした需要増加期待と金融引き締めによる景気減速懸念から、売り買いが拮抗、ほぼ横ばいだった。今日から取引の中心となった7月限終値は前週末比0.01ドル高の110.29ドル。

24日は、米中の景気後退懸念が高まり、反落した。ただ、EUが近日中にロシア産原油輸入禁止で合意するとの報道、月末から始まる米国の大ライブシーズンへの期待もあり、底値は固かった。7月限終値は前週末比0.52ドル安の109.77ドル。

25日は、同日発表の米国原油在庫の減少を好感し、反発した。7月限の終値は、前日比0.56ドル高の110.33ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(6月度)は、5月12日～18日の間、103.80～109.90ドルの範囲で推移した。5月19日106.60ドル、20日107.50ドル、23日109.30ドル、24日107.70ドル、25日109.50ドルで推移した。

原油		今週		前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	5/15～5/21	2,896	▼ -94	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	75.3	▼ -2.4	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	5/21	9,230	▲ 250	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	5/23	103.84	▲ 0.41	▲ 40.1
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	5/23	110.29	▼ -3.91	▲ 44.2
	原油CIF単価 (\$/bbl)	4月下旬	109.70	▲ 1.33	▲ 43.39
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	86,181	▲ 2,370	▲ 40,481
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	124.90	▼ -1.95	▼ -15.33
	外国為替TTSレート (¥/\$)	5/23	128.78	▲ 1.87	▼ -18.80

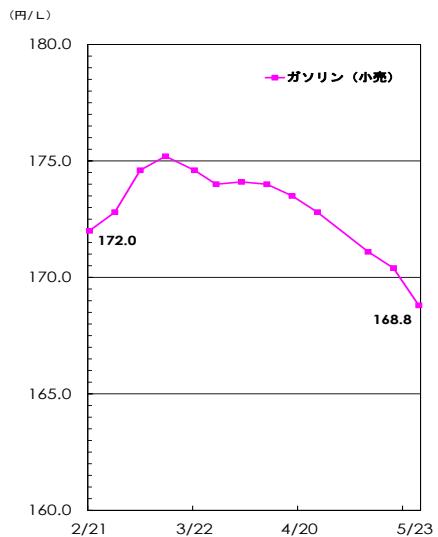
為替は、5月12日～18日の間、128.90～129.77円の範囲で推移した。5月19日128.43円、20日127.85円、23日127.78円、24日127.87円、25日126.98円で推移した。

財務省が5月19日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、4月下旬の原油輸入平均CIF価格は、86,181円/klで、前旬比2,370円高、ドル建て109.70ドルで前旬比1.33ドル高、為替レートは1ドル/124.90円。また、同日発表の貿易統計(速報・旬間)によると、4月の原油輸入平均CIF価格は、83,246円/klで、前月比16,359円高、ドル建て107.77ドルで前月比15.98ドル高、為替レートは1ドル/122.81円。

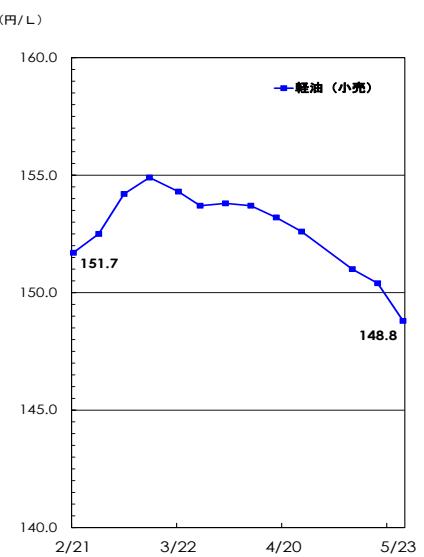
そのような中で、5月23日時点の小売価格は、ガソリンが前週比1.6円の値下がり、軽油も同1.6円の値下がり、灯油は18円の値下がり(18%ベース)であった。ガソリンは6週連続の値下がり、軽油も6週連続の値下がり、灯油は5週連続の値下がりであった。ガソリンの全国平均価格は168.8円と、引き続き、燃料油価格激変緩和対策が発動され、補助金の支給額は37.3円となった。



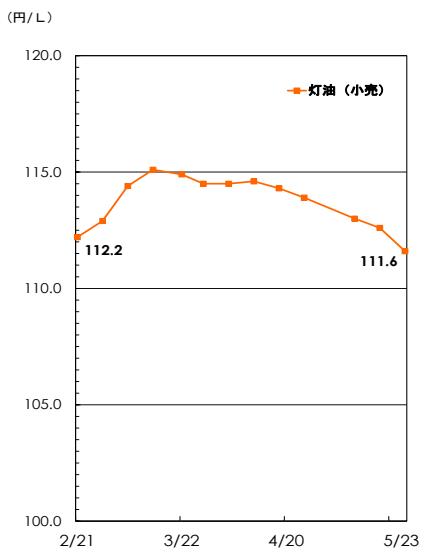
ガソリン		今週		前週比	前年比
需給	生産	5/15 ~ 5/21	837	▼ -21	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	758	▼ -17	▲ -
	輸出	"	165	▲ 121	▲ -
	在庫	5/21	1,629	▼ -86	▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/17 ~ 5/23	71.8	▼ -2.1	▲ 10.4
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	5/17 ~ 5/23	73.1	▼ -0.9	▲ 14.7
		(TOCOM/中部)	73.0	▼ -2.6	▲ 13.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/23	168.8	▼ -1.6	▲ 16.2
	※業転、先物価格は税抜き価格				



軽油		今週		前週比	前年比
需給	生産	5/15 ~ 5/21	773	▼ -18	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	622	▲ 91	▲ -
	輸出	"	174	▲ 66	▲ -
	在庫	5/21	1,616	▼ -23	▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/17 ~ 5/23	72.2	▼ -3.6	▲ 8.7
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	5/17 ~ 5/23	88.6	▼ -1.5	▲ 24.8
		(TOCOM/中部)	5/23	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/23	148.8	▼ -1.6	▲ 16.1
	※業転、先物価格は税抜き価格				



灯油		今週		前週比	前年比
需給	生産	5/15 ~ 5/21	155	▲ 31	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	86	▼ -23	▼ -
	輸出	"	47	▲ 47	▲ -
	在庫	5/21	1,326	▲ 22	▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/17 ~ 5/23	71.8	▼ -3.2	▲ 9.1
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	5/17 ~ 5/23	74.1	▼ -2.1	▲ 16.7
		(TOCOM/中部)	74.0	▲ 0.1	▲ 13.6
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/23	111.6	▼ -1.0	▲ 18.4
	※業転、先物価格は税抜き価格				



■ 関連情報

1 海外/原油

5月25日のNYMEX先物原油は、朝方弱含んだが、同日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の先週末(5月20日)時点の米国石油在庫週報で、原油在庫が前週比100万バレル減と市場予想(同:70万バレル減)を上回る取り崩しとなり、米国の石油需要の強さへの期待感から、反発した。ただ、ガソリン在庫は市場予想ほど減らなかつたため、ドライブシーズン入りしても大きく需要は伸びないとする見方もあった。7月限は0.56ドル高の110.33ドル、8月限は0.55ドル高の107.75ドルだった。

EIAによると、5月23日時点のガソリンの小売価格は、前週比10.2セント値上がりの1ガロン4.593ドル(156.1円/リッター)、ディーゼルは同4.2セント値下がりの5.571ドル(189.3円/リッター)

となった。ガソリンは5週連続の値上がり、ディーゼルは2週連続の値下がりになった。

ベーカーヒューズ社5月20日発表の米国内稼働石油掘削装置は前週比13基増の576基と9週連続増加。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2022年5月15日～5月21日に休止したトッパー能力は50.4万バレル/日で、前週に対して18.0万バレル/日増加した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は289.6万klと、前週に比べ9.4万kl減少。前年に対しては66.0万klの増加。トッパー稼働率は75.3%と前週に対して2.4ポイントの減少、前年に対しては17.2ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、軽油が減産、その他の油種で増産となった。ガソリン/2.4%減、ジェット/10.6%増、灯油/25.0%増、軽油/2.3%減、A重油/13.7%増、C重油/17.1%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.5万kl減)。軽油の輸出は17.4万kl(前週比6.6万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でジェット、軽油が増加し、その他の油種で減少した。前年比では灯油が減少し、その他の油種で増加した。ガソリンの出荷は75.8万kl(前週2.3%減)と2週連続で減少した。ジェット9.5万kl(前週59.2%増)、灯油8.6万kl(前週21.3%減)、軽油62.2万kl(前週17.2%

増)、A重油18.7万kl(対前週2.6%減)、C重油18.3万kl(対前週7.2%減)。

(単位:千KL)

	今週 (5/15 ~ 5/21)	前週 (5/8 ~ 5/14)	前週比
ガソリン	758	775	▼ -17 (-2%)
ジェット燃料	95	60	▲ 35 (58%)
灯油	86	109	▼ -23 (-21%)
軽油	622	531	▲ 91 (17%)
A重油	187	192	▼ -5 (-3%)
C重油	183	197	▼ -14 (-7%)
合計	1,931	1,864	▲ 67 (4%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

5月21日時点の在庫は、灯油、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはジェットが増加し、その他の油種で減少となった。

ガソリンは162.9万kl、前週差8.6万kl減。前年に対しては45.6万kl少ない。

灯油は132.6万kl、前週差2.2万kl増。前年に対しては19.3万kl少ない。

軽油は161.6万kl、前週差2.3万kl減。前年に対しては27.1万kl少ない。

A重油は71.9万kl、前週差0.2万kl減。前年に対しては5.5万kl少ない。

C重油は177.0万kl、前週差2.1万kl増。前年に対しては21.8万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (5/21)	前週 (5/14)	前週比
ガソリン	1,629	1,715	▼ -86 (-5%)
ジェット燃料	824	826	▼ -2 (-0%)
灯油	1,326	1,304	▲ 22 (2%)
軽油	1,616	1,639	▼ -23 (-1%)
A重油	719	721	▼ -2 (-0%)
C重油	1,770	1,749	▲ 21 (1%)
合計	7,884	7,954	▼ -70 (-0.9%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

5月17日～23日の指標原油価格は前週比で値上がりし、為替レートはやや円高で、元売会社の原油コストは、3.5円値上がりしたものと見られる。

上記コストアップに先週の補助金額36.1円を加えたコスト上昇額39.6円に、補助金37.3円（計算上39.6円になるが、35円を超える値上がり分は半額支給）が支給されることから、

次週(5/26～6/1)の元売会社の実質的な卸価格は2.3円の値上げとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

5月17日～23日の製品スポット市況は、5月10日～16日平均と比べ、全ての取引・全ての油種で値下がりした。

直近週(5/17～5/23)の陸上スポット価格平均値は、前週(5/10～5/16)比で、ガソリンは2.1円の値下がり、灯油は3.2円の値下がり、軽油は3.6円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(5/17～5/23)に、前週(5/10～5/16)比で、ガソリンは2.3円の値下がり、灯油は4.1円の値下がり、軽油は2.7円の値下がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは0.9円の値下がり、灯油は2.1円の値下がり、軽油は1.5円の値下がりだった。

(RIM) [陸上ローリー 4地区平均]	(単位：円/㍑)		
	今週 (5/17～5/23)	前週 (5/10～5/16)	前週比
ス ポ ッ ト 価 格	71.8	73.9	▼ -2.1
レギュラー	71.8	75.0	▼ -3.2
軽油	72.2	75.8	▼ -3.6

(TOCOM) [期近物/終値 [平均]]	(単位：円/㍑)		
	今週 (5/17～5/23)	前週 (5/10～5/16)	前週比
レギュラー	73.1	74.0	▼ -0.9
灯油	74.1	76.2	▼ -2.1
軽油	88.6	90.1	▼ -1.5

※上記価格は税抜き価格

参考値 (5/17～5/23実績値) (単位:円/㍑)			
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -2.1	▼ -0.9	▼ -1.5
灯油	▼ -3.2	▼ -2.1	▼ -2.6
軽油	▼ -3.6	▼ -1.5	▼ -2.6
A重油	▼ -3.1		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

5月23日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.6円安い168.8円、軽油も同1.6円安い148.8円、灯油は18%ベースで同18円安い2,009円(1%ベースでは同1.0円安い111.6円)。ガソリンは6週連続の値下がり、軽油も6週連続の値下がり、灯油は5週連続の値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりはなし、横ばいもなし、値下がりが全47都道府県だった。全国最安値は埼玉県の161.8円、その次は岩手県の162.3円であった。他方、最高値は長崎県の181.4円だった。最も値下がりしたのは島根県(前週比3.4円安)だった。

次回調査時(5/30)のガソリンの小売価格は、横ばいが予想される。

(資源庁公表) [週動向]	(単位：円/㍑)			
	今週 (5/23)	前週 (5/16)	前週比	直近高値
レギュラー	168.8	170.4	▼ -1.6	08/8/4 185.1
灯油	111.6	112.6	▼ -1.0	08/8/11 132.1
軽油	148.8	150.4	▼ -1.6	08/8/4 167.4

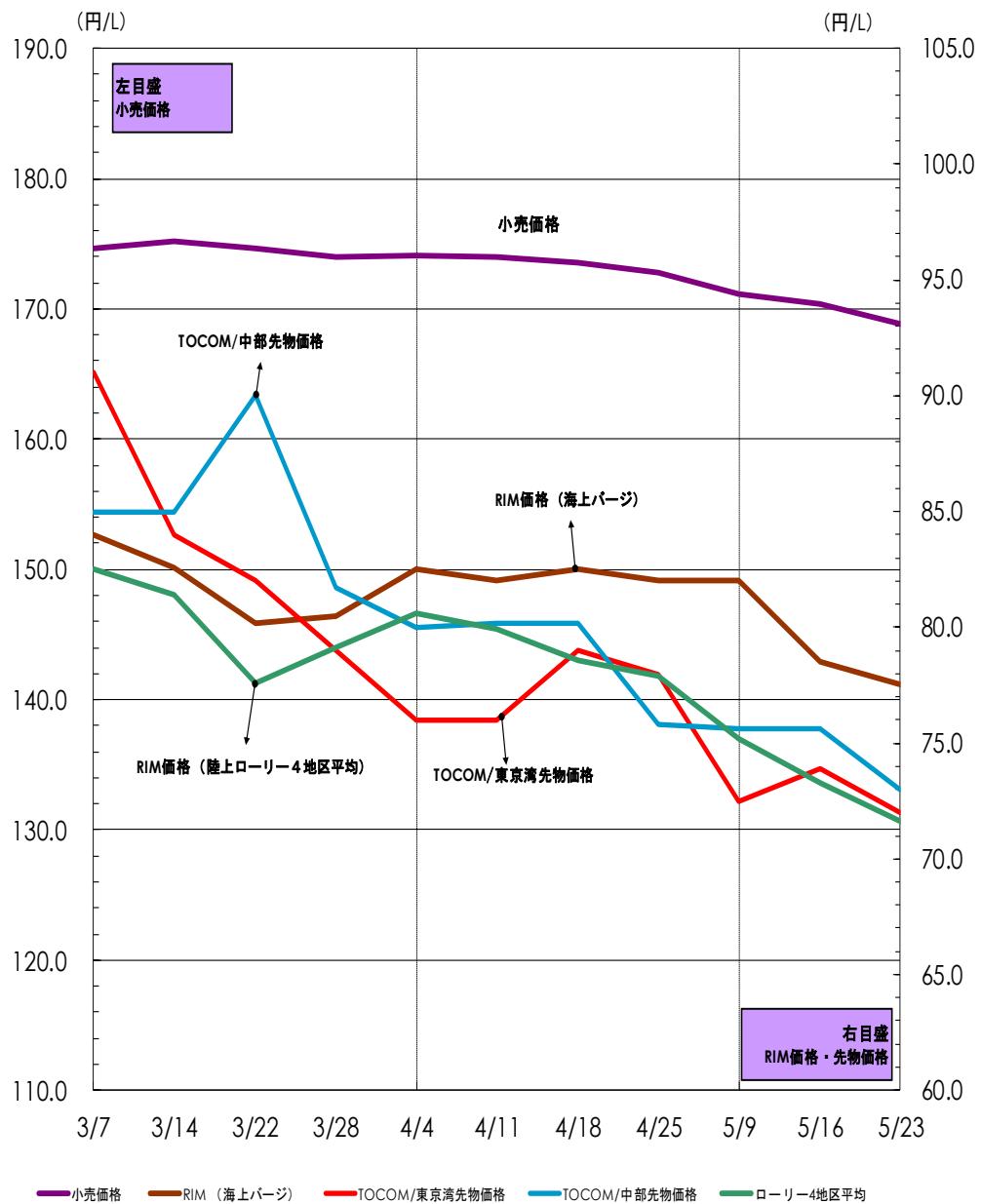
※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2022/3/7 ~ 2022/5/23)



■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回（2022第9号）の公表は、6/3（金）14:00です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関するすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange : NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。※「二番限（翌月限）」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用（いわゆる4RIM価格とは異なる）。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資源エネルギー庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14:00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。